

# 昭和九年二月二十六日に於ける 土木俱樂部懇親會の席に臨みて

## 土木俱樂部の一員

標題に年月日迄入れたのは意味がある、夫れは土木技術官等殊に地方の夫れが其の日の會合を最も重要視して居るからである、なぜならば是等の人々の首問題と將來の土木事業に俱樂部の幹部所がどう云ふ關心を持つて居るかを知り度い爲である。世の人々は是等の人々に水平線以上の同情を持つて居ない、帝國議會は農村の振興に力瘠を入られたのは誠にありがたき極みであるが、是等の人々に對する眞劍の憐憫は固より其の聲を聞かなかつた、府縣會あたりで偶々一掬の涙を注がれることもあるにはあるが、之は正直に申すと土木課員一同への御べつかである、斯くして是等の人々は何所にも頼みとするものはないと平素から諦

めて居る、近頃土木俱樂部とか土木協會等が生れて稍頼みの綱とも云ふべきものが出來たが理想はあつても、まだ強い結束がなく、總會を開いた譯でもなく唯中央の熱心な人達に率ひられて、精神上の得心をして居る位が關の山であるから、彼の人達が何かやつて呉れるだらうと期待して居る位のものである、夫れにしても今回の會合は土木匠救事業の善後措置如何と言ふ極めて時宜に適した命題の下に協議せらるゝのであるから關心を持つなと言はれても持たざるを得ないであらう、即ち是等の人々が重要視して居る點は題材の關心を持たざるを得ない點と、あの人達が平素の意氣に比してどの程度迄やつて呉れるかと言ふ二點にあつ

た、會議は非常に盛澤山の意見に依つて充たされ、凡そ其の意見も一致を見た様で結構だと思つて居ますが、あの中に土木俱樂部夫れ自身の問題としては一寸かけ離れたものもあつた様で、あれ丈の立派な意見が出る位なら寧ろ土木主任官會議の様な土木局の主腦部全般に響く様な會合を催して戴きたかつたと思ふ、なぜならばあの様な問題は元來技術官同志が幾ら不平を並べて見ても、又意見を發表しても之を事務的に見て相當の批判を加ふるに非ざれば完璧を期しがたい種類の問題だと思ふからである、故に土木俱樂部の役員の方々があれ丈澤山な意見の一致事項を今後どう處理して行くかが問題であらうと思ふ。此際釋迦に說法かも知れぬが土木局全般に連絡を取られ、俱樂部員の爲否土木行政の將來の爲些少なりとも貢獻せられんことを偏に御願ひして止まざる次第であります。尙中川會長より最近頻發する土木疑獄に關し一場の訓辭御鞭撻があつた様ですが至極當然と心得ます。夫れは土木俱樂部員の統率者として今後の指導精神を那邊に置くかは最も重大なる問題と言は

ねばならぬからです。單に技術のみの練磨では立ち行かないそこに他の官吏より、より以上の精神力が必要であらねばならぬ、なぜならば社會通念上最も誘惑が多いとせらるるからである、一體土木事業は之を請負と爲す場合不正行爲は主任級以上の處に於て行はれ易く直營施行の場合に在りては、下級技術員乃至は人夫頭級に行はるるを普通とすと言ふも過言でない、最近新に土木部が敷かれて以來長野の兒玉氏は突然辭職せられ、宮城の伊藤氏は刑事問題に觸れ休職と爲り、今又茨城に若干名の土木課員が刑事問題で召喚を見る等俱樂部平素の倦まざる努力を水泡に歸せしめつゝある事實は後の二事件の如きは誠に遺憾に堪へざる處である。こう言ふ事件が度重なると思ひには社會の信用を失墜するのみならず、俱樂部員全體の士氣に著しき悪影響を及ぼすことを恐れるのである、私は之を假に土木技術者の受難時代と名づく、即ち外には豫算の著しき減少の爲斷頭臺上の露と消えなるとするもの其數五千、内には不正を行ふものありて社會の信用を害するもの其のパーセンテ

イジは僅少なりと雖も、人の耳目を聳動すること之れより大なるものなきものがある。元來政黨内閣時代に在りては土木疑獄の多くは地方黨員の關係する處多く、地方の技術官は所謂政黨知事と自認する人々の縁の下の力持を爲すのが一つの藝當であるから、地方に土木疑獄があつた場合大概地方政黨の一部の人が責任を果すことに依て疑獄の梟をつけてしまふのが普通であつた、かなり正義に強い土木課長でも一度政黨知事と自認する人の部下になつたら忽ち、蒟蒻の様になることは、十人が十人共そうであつたと言ひ得ると思ふ、夫れに引き替へ内務部長級には夫れは土木課長以上正義感の乏しい人はあるにはあるが夫れでも如何に強硬な政黨知事の部下に使はれても毅然としてせしらぬ顔をしたり、可成間違の少ない様に努力さへする人があるのは誠に意を強うするに足るものとせねばならぬ、こゝら土木俱樂部員全般の平素の指導精神がその宜敷を得ない點ではなからうかと思ふのである、書記官級の人の中には政黨知事の處に赴任する時、豫め用心する様先輩から適當の

指導を受くることが寧ろ當然と心得て居らるゝ様であるが、土木技術官が始めて土木課長となつて遠くへ赴任する時態々東京へ立寄つてもそんな注意は一向に受けたと言ふことを聞いたことがない、知事とそりの合はぬ内務部長を動かすことは中々困難であつても土木課長の場合は極めて簡單であつた(今はそうでないかも知れぬが)内務部長の正義感に動かされて知事に進言を爲したことが基となつて飛んだ汚名を被むつたものもある、この邊のことを考へると今後の指導精神は餘程改善を要すと考へる、私は土木俱樂部の考ふべき基礎的工作は先以て俱樂部員全體の士氣の鼓舞であり、其の本來の使命たる技術即ち無理をしないと云ふ、科學的正義感を基調として元氣に事務を遂行せしむる勇氣を必要とするものであるからその指導精神に基き全般を強く統率し平素其の意味に於て堅く結束し以て地方の土木部、課長の措置を常に善導すべきであると思ふ、斯の如きの實行力なくして俱樂部の發展を期するは極めて迂遠なりと思考す、今回出でたる數十の意見の實現も要は各自の

間に上述の指道精神を充分に了得し皆が安んじて且何となしに力を得て強き統率力の前に益々堅く結束するに非ざれば一も成就するものなかるべきことを恐るゝものである。

以上は私の懇親會席上に於ける私語であつたが之と同様の意見を持つた方が澤山あつたことを序に附言して置く。

## 道路技術者より觀たる雪害豫防 對策の一私見

三浦義太郎

### 緒論

近時東北、北海道、北陸方面に於ける冬期雪害の著しきものあるを以てこれが豫防對策を講ぜんと雪害調査委員會なるもの組織せられ、雪害に對する各般に亘り調査せられんとする秋に際し、道路技術者の立場より茲に一私見を述べ、御批判を乞ふは敢て徒爾に非らざるものと思ふので

あります。

本青森縣に於ては十月下旬に、初雪を見て、十一月は月の大半はみぞれを以て惱まされ、十二月中旬に於て根雪となり三月末に融雪し、四月より春の氣候となるものであつて、八戸市の附近を除いては大抵是の經路を辿るのであります。

根雪の期間即ち一、二、三の三ヶ月は全然道路は雪に被覆